



小中一貫教育だより

学校教育課・教育センター版

平成29年9月29日 No.3

(小中一貫教育推進だよりから 通算No.74)

十日町市教育委員会学校教育課



小中合同クリーン作戦 ※裏表紙で説明

小学校と中学校を一貫させるキーワードを作る大切さ

学校教育課長 川崎 正男

なんとかして不登校児童生徒数の減少を図っていきたい、こんな思いを抱きながら今年度の小中一貫教育中学校区教職員研修会の企画会議を行っていた頃、市教育委員会に一冊の冊子が届きました。国立教育政策研究所の「PDCA×3＝不登校・いじめの未然防止」です。企画会議ではこの本に実践を掲載している実践者からは是非講演をお願いしたい、ということになり、担当者が早速連絡をとりました。こうして紹介してもらったのが、8月に実施した研修会で講演をしてくださった静岡県袋井市立袋井中学校で研修主任をされている高橋壮臣先生でした。

「Aをさせたいなら、Bをせよ」講演をお聴きしながら思い出していた言葉です。先生の講演を要約すると、不登校児童生徒数の減少を図りたいなら、小中一貫教育を使って自己有用感を高めよ、ということになるかと思えます。高橋先生は、自己有用感というキーワードで小学校中学校の教員を結び、これまでの実践のベクトルの方向をそろえることで、成果を導き出されていました。講演後に控室でお聞きしたところによると、高橋先生率いる学年集団の平均年齢は29歳。30歳後半の高橋先生の的確なリードのもと熱意溢れる若い先生方のエネルギーがいかんなく発揮され、その学年集団を中心に成果が出ているとも思いました。

目指す方向が定まり、みんなが同じ方向を向いて実践し、時々振り返りながら再び力を合わせれば、着実に成果が出てくる。各中学校区で、キーワードをもとにした実効性ある取組がなされることを期待しています。

市教育の重点 不登校の減少をめざして

～『不登校予防のための早期対応マニュアル』取組を開始しました～

十日町市においては、不登校児童生徒の出現率が高く、特に中学校ではその傾向が顕著となっています。こうした現状を踏まえ、市教育センターでは各学校が全校体制で不登校問題に対応するために、『不登校予防のための早期対応マニュアル』を作成しました。

1 「生活アンケート」の確実な実施

特に中学校では、「生活アンケート」を継続して実施する。不登校予防にかかわる点検を確実にやる。アンケートは短いスパンで行い、上がってきた諸問題に早期に対応していく。

2 「欠席・遅刻カード」を活用した全校体制での情報共有

欠席や遅刻・早退確認、保健室利用などをチェックして、全職員で不適応を起こしている児童生徒の動向を確実につかむ。

3 「1・2（ワン・ツウ）運動」、「1・1・1（ワン・ワン・ワン）運動」の実践

欠席を関係職員に伝えるだけで済ますことなく、個々の状況に応じてすぐに「1・2（ワン・ツウ）運動」、夏休み明けから9月はじめまでは「1・1・1（ワン・ワン・ワン）運動」で児童生徒及び保護者に対応していく。

※「1・2運動」… 欠席1日目：電話連絡、欠席2日目：家庭訪問

※「1・1・1運動」… 欠席1日目から家庭訪問を継続

4 「欠席が連続3日・断続3日の欠席児童生徒」及び「別室登校や早退・遅刻が継続している児童生徒」の報告

不登校児童生徒の問題は、緊急性がないためか、他の生徒指導上の問題に比べ、後回しになっている感は否めない。新たな不登校、また心配される児童生徒については、月末の報告を待たずに、すぐに「電話連絡」及び「不登校連絡シート：様式A・B」を市教委にあげる。月末の報告前に初期対応を進めていく。

5 生徒指導上の諸問題の解決に向けて

不登校及び不登校傾向を起こす児童生徒は、不登校に係る問題だけでなく、別の問題行動へと繋がるリスクを背負っている。そうしたリスクを解消する意味からも、不登校予防や早期対応を徹底していく。

現在、2学期始業日から市内小中学校では、このマニュアルを活用した取組が始まっています。上記のポイントを押さえながら、不登校予防・早期対応の取組を進めることで、不登校の減少を目指していきます。

小中一貫教育中学校区合同教職員研修会を開催

8月5日の小中一貫教育中学校区合同教職員研修会では、多くの皆様から参加していただきありがとうございました。今回の研修会は、静岡県袋井市立袋井中学校の高橋壮臣教諭から小中連携とPDCAサイクル活用を手掛かりとして不登校の未然防止をテーマとした講演をしていただきました。

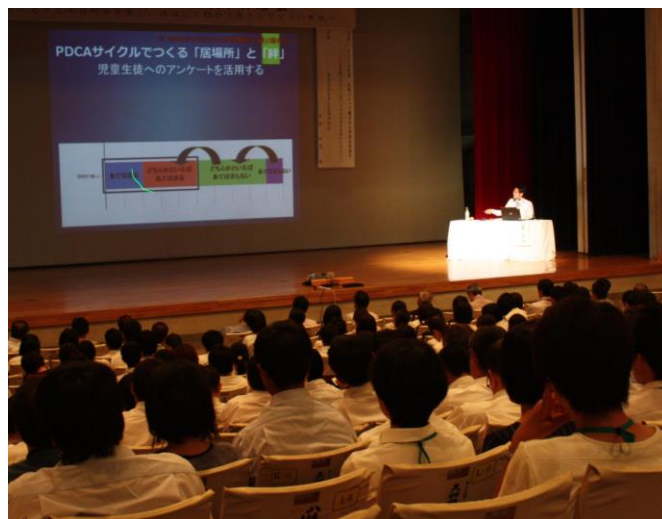
講演会では、よかった（76.3%）普通（22.9%）で、実に99.2%の参加者から肯定的評価をいただきました。「ワクワクする内容だった」「分かりやすい発表であった」「参

考になった」「実践してみたい」等の意見が多くありました。

また、講師からは、「少しでもお役にたきたい」と、プレゼン時の資料だけでなく、多くの校内取組資料をいただきました。先日サーバーを通じて配信しましたので活用してください。

講演会で不登校防止についてマクロな部分を講演いただいた後の分科会では、不登校防止のミクロな部分をグループ協議していただきました。インシデントプロセス法を用いた協議は、よかった（80.1％）普通（17.8％）で肯定的評価は97.9％でした。

「参考になった」「小中で話し合うことは大切」「自分の立場に当てはめて考えることができた」などの意見が多くありました。特に事例提供者は事前準備の負担もなく、「支援の工夫や参考意見を多くいただいた」と好評でした。前半の講演会の時間が押した中での短い時間のグループ協議で申し訳ありませんでしたが、今後も当市の小中一貫教育の課題解決のためにより良い研修を実施してまいります。



Tokamachi-English-Camp ～今年もたっぷり英語にふれました！～

小学生28名が8月3日に千手中央コミュニティセンターで、中学生37名は8月3・4日（1泊2日）に三省ハウスを会場に、イングリッシュキャンプを行いました。今年は内容を改善し、ALTなど外国人スタッフの独自プログラムを多く取り入れ、より充実した活動を実施することができました。

以下は、参加した児童生徒の感想です。

「フランチエスカ先生、サム先生のシヨップで協力しながら楽しめた。」（小）

「学校で出来ないことを楽しめた。」（小）

「英語をつうじて新しい仲間がたくさんできた。」（小）

「『歴史秘話ヒストリア』でALTの先生方に、英語で質問をすることができた。」（中）

「外国人の方々が話す本場の英語がとびかう環境はなかなか経験することができないと思った。」（中）

「先生方がやさしくしてくれて、苦手な英語がちょっと好きになった。」（中）

「初めての体験でしたが、班のみんなと協力し合うことの大切さや、英語を通じて学ぶことがたくさんあった。得るものがたくさんあった。」（中）



英語ボランティアガイド養成講座がスタート！

7月31日、十日町小学校を会場に今年度の英語ボランティアガイド養成講座が開講しました。十日町高校から5名の生徒が、市内中学校から5名の生徒が参加し、総勢10名でのスタートです。今年度は、プログラムを大幅に変更し、複数名の外部講師を招いて、様々な内容を学んでいます。

現在は、夏休み中の特別講座が終了し、情報館を主な会場に夜間の講座を行っています。10月末の“School Visit（学校訪問）”に向け、10名の中高生はプレゼンづくりに励んでいます。



中学校英語・学力向上専門監事業に、ぜひ小学校の先生方も参加を！

学力向上専門監事業は、今年度、「英語」教科で実施しています。毎月、授業が公開されています。小学校の先生方からは、小中一貫教育の研修の場としてだけでなく、新学習指導要領でスタートする外国語の研修の一環としても、ぜひ、参加をお願いします。中学校の英語専科の先生方が、どのような視点で授業づくりを行っているのか、とても参考になります。問合せは、教育センター小林囑託指導主事までお願いします。



学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～10・11月～

日程	内容【会場】	備考
10月2日（月）	プロに学ぶ～授業力向上研修 Part2～ 【南中学校】	上教大大学院赤坂真二教授による師範授業、講義
10月11日（水）	第3回特別支援教育研修講座 【川西庁舎】	「言語やコミュニケーションの発達について」講師：樺澤りか氏（言語聴覚士）
11月7日（火）	英語科授業力養成講座Ⅱ 【川治小学校】	長岡市教育委員会英語指導室講師による師範授業、講義、演習
11月10日（金）	若手事務職員研修会Ⅱ【川西庁舎】	3年目までの若手事務職員対象の講義、演習
11月14日（火）	第4回特別支援教育研修講座 【川西庁舎】	「特別支援教育を支援するICTの活用」講師：山口俊光氏（新潟市ITサポートC）
11月15日（水）	第2回不登校対策研修会 【川西庁舎】	「新たな不登校を生まない学校づくりの推進」講師：神村栄一教授（新大教職大学院）
11月16日（木）	人権教育・同和教育教職員研修 【千手コミセン】	新潟県人権・同和センター講師を招いた人権教育、同和教育の推進

【表紙の説明】

吉田中学校区で行われた小中合同クリーン作戦。児童生徒は事前に10集落の区長と相談して清掃を計画、小学5年～中学3年の児童生徒100人は地区への感謝を込めて協力して清掃しました。